



神殿原次郎先生

南稜三福田

参考資料

100年前の開墾を体験！

なんりょうさんぶくでん

定時制棟跡地に南稜三福田を造成しました。

本校には以前、昼間定時制という素晴らしい課程が41年間併設されていた。昼間定時制は、戦後の混乱期において厳しい家庭状況にあっても学問を志す若者へ学習環境を提供するために設立されていた。しかし、この中間定時制も、日本が豊になるに従ってその役割を終え閉課程することとなる。

今回の定時制棟跡地利活用プロジェクトは、その後も永く残されていた定時制校舎が老朽により解体された事から始まる。先輩たちの苦学を支えてきた学舎の跡地をいかに活用するか、思案を巡らす中から南稜三福田の造成の構想が生まれたのである。なお、この三福田とは、おんでん 恩田、けいでん 敬田、ひ 悲

でん 田の総称で、恩を忘れない心の田、人を敬う心の田、困っている人を助ける心の田を表している。

また、この南稜三福田の造成と活用をとおして、次の5つを生徒や関係者に定着させたいと考えている。

- ① 先人の辛労と功績を体感することで母校愛と勤労の精神を培う。
- ② 循環型有機稲作を実施し、環境保全の必要性を内外にアピールする。
- ③ 稲のある風景を提供することで落ち着いた学校生活につなげるほか、豊かな心を育む。
- ④ 地域環境の再現。(小さな球磨盆地)
 - 80周年水路・・・・・・・・球磨川
 - 南稜三福田・・・・・・・・人吉球磨地域の開墾された田畑
 - 南稜三福田までの水路・・・百太郎溝
- ⑤ 農村文化を継承する場とする。

開墾には、予想以上の時間と労力が必要であった。面積は、307㎡とそれほど広くはなかったが、学舎の跡地と言うこともあり瓦礫や小石が多く、地盤もかなり硬い状態であった。生徒と職員が篩い・剣スコップ(一部で重機も使用)を用い、深さ50cm程度を掘り、小石や瓦礫を取り除く作業が平成18年8月から翌年の3月まで続いた。

なお、出土した石は果樹園土手の石垣に利用されている。

平成19年6月20日、南稜三福田にて御田植祭が挙行され、本校作物の五穀豊穰を祈念した。50名の代表生徒・職員のほか同窓会、育友会からも御出席いただいた。和やかな中にも真剣な面持ちの早乙女、田男たちの田植えで厳粛な御田植祭となった。